

産・学・伝で行う 「SDGsと地域・文化の融合」

天然温泉 みどり楽の湯

取組の内容

★このプロジェクトでは、**金城学院大学** 都築ゼミのRellaプロジェクトと伝統工芸（有松鳴海絞り）と地元のビジネス（みどり楽の湯）との連携を通じて、**SDGsへの取り組みと地域の文化と伝統を広め、学生の地域貢献活動を促進すること**を目的としました。

今回の取組として、金城学院大学 都築ゼミの学生の皆様がRellaプロジェクトで製作した傘のハンドルカバー（Rella）を、みどり楽の湯で販売する活動を行いました。カバーは有松鳴海絞りの伝統的な絞り技術を用いて作製され、その販売を通じてSDGsと地元のビジネスと文化・伝統工芸を広く紹介しました。そして有松鳴海絞りのタオルやハンカチなども販売し、伝統工芸品の良さを広めました。



「Rella」とは金城学院大学 都築ゼミの学生がビニール傘が捨てられるという社会問題と向き合い、「捨てられるビニール傘を減らしたい」という思いから考えられたのが「Rella」です。なんの変哲もないビニール傘に特別なハンドルカバーを取り付けることで、愛着のある大切な傘に変わります。愛着を持つと物を捨てる行為は削減されます。さらにハンドルカバーの生地には伝統工芸品の有松鳴海絞りの端材を使用して、製作は「障がい者の就労支援を行う事業者」と連携して障がい者の方の収入になるようにと取り組んでいます。

取組の背景（動機・課題）

★みどり楽の湯では地元の伝統工芸品である「有松鳴海絞り」が近年では技法を受け継ぐ職人が減少し、市場の変化もあり、生産数が減少していると聞いていたため、伝統工芸品を守るために何かできないかと考えておりました。

そんな中2023年11月2日の「SDGs交流会 & 相談会」において、金城学院大学の方が有松絞りで製作した「Rella」と出会うことができました。学生の方に伺ったところ「SDGs」のイベントしか販売しておらず、販路が少ないと聞きました。そこで、みどり楽の湯ではこの商品の販路を増やすことで、有松鳴海絞りの紹介にもつながると感じました。そして、金城学院大学 都築教授や有松鳴海絞り関係者様にご協力を得て、取組を実施することができました。

取組の成果・展望

★取組日程：2024年6月27日（木）～7月31日（水）

みどり楽の湯内にてRella（有松鳴海絞りで作った傘のハンドルカバー）と有松鳴海絞りのハンドタオルや手ぬぐい等を販売し、館内では「Rella」と「有松鳴海絞り」の内容について紹介したポスターを掲示し、認知度向上つなげることができました。2024年6月27日には金城学院大学都築ゼミの学生の皆様にもみどり楽の湯玄関にてRellaの販売も行っていただき、学生の地域貢献活動の一助となりました。



関連するゴール

